

(60 分)

以下は 2003 年に出版された本名信行著『世界の英語を歩く』の一部である。A と B の文章を読んで続く各問いに答えよ。解答は全て解答用紙に記入せよ。

A

日本の国立国語研究所が数年前に発表した国際調査によると、日本を含む多くの国の人々は「今後世界のコミュニケーションで必要となると思われる言語」として、英語を第一位にあげています。さらに興味深いことに、ほとんどの国の人々は自分の国語（ドイツ語や中国語など）よりも、英語を第一にあげています。英語はいったい、どうしてそんなに重要なのでしょうか。

少し前には、英語はインターネットの情報と密接に結びつけられました。イギリスのチャールズ皇太子は 1995 年に、イギリス政府の外郭団体であるブルティッシュ・カウンシル（British Council 英国文化振興会）の英語普及会議で、「世界中の電子情報の 80% は英語で処理される」と述べました。確かに、当時多くの人々はこれに納得し、デジタル・デバイドとともにイングリッシュ・デバイドが取りざたされたりしました。

しかし、現在はどうでしょうか。1995 年から言語別のオンライン人口を調査しているグローバル・リーチというマーケティング・コンサルタント会社によれば、2002 年には英語によるインターネット使用者の割合は世界全体の 40.2% で、英語以外の言語によるものの 59.8% を下回ることが判明しました。

《 中 略 》

しかし、いったん国や民族を超えて情報を伝達するとなると、英語の実利性は依然として否定できません。むしろ、今後は以前にもまして、人やアイデアやものが特定の範囲を超越して行き交うことになるかと予想されるので、多くの国の人々と交流するためのことばが求められます。多くの企業や団体では国語以外に英語でもウェブをつくっています。

ここに英語の現代的意義があると思います。事実、英語はすでに普通の人々の国際言語となっています。ニッサンとルノーが提携すると、共同作業の言語は日本語でもフランス語でもなく、英語となります。国際ビジネスは言うに及ばず、NGO の人々が推進する国際協力プロジェクトはたいがい、英語で行われます。

英語はずっと以前からイギリスやアメリカという特定の国を超えて、世界の人々と交流する多国間、多文化間コミュニケーションのことばとなっており、今後はますますその役割を果たすようになるでしょう。世界の多くの国で小学校から英語教育を開始しているのは、このような英語の広域性と利便性を認識しているからにほかなりません。

私たちは英語のこのような広がりについて、もっとよく知る必要があります。日本人は幕末の開国にあたって、英語をイギリスのことばと理解しました。また、第二次世界

大戦後は少し観点を変え、それをアメリカのことばと考えてきました。このために、日本人の英語に対する認識は、現在の英語の国際的役割から、(a)かなりかけ離れたもの なっています。

だから、私たちの英語教育の目標も非現実的といわざるをえません。《 中 略 》そしてこの目標の達成が不可能なので、いつまでたっても英語に自信がなく、それを積極的に使用しようとする意欲が湧きません。

**問1** 下線部分 (a) に関し、この著者が考えるであろう日本人の一般的な英語認識を以下のようにまとめた。【 】の中に記載された語のうち最も適切な一語を選び解答欄のどちらか一つを○で囲め。

- ・日本では英語学習者が①【 ネイティブ / ノンネイティブ 】並みの英語力を求められる。
- ・英語を学習するうえで②【 英米両国 / 英米以外の国 】の文化の規範を学習することが③【 重要視 / 無視 】される。
- ・④【ネイティブ / ノンネイティブ 】と同じように話せないと、ちゃんとした英語でないと思ってしまう。
- ・学習者が⑤【 英米両国 / 英米以外の国 】への志向を植え付けられると、自分の⑥【 ネイティブ / ノンネイティブ 】としての限られた能力を正當に⑦【 評価できるようになる / 評価できない 】。
- ・⑧【 英米両国 / 英米以外の国 】のノンネイティブが使う英語をその必然性が理解できず⑨【 正當 / 不當 】な評価を下す。
- ・私たちは一方では英語は国際言語であると言いながら、他方では英語と⑩【 英米両国 / 英米以外の国 】の文化は一体と考えがちである。これは現在の英語の国際的役割からみると、非現実的である。

**B**

英語の国際化と多様化は、英語の機能と構造のいろいろな面に反映されます。まず、世界のさまざまな英語には、発音、語彙、文法などの面でたくさんの違いが見られます。それから、ものの言い方の方法や順序などにも、いろいろと違いが生じます。これが適切に処理できないと、コミュニケーションはうまくいきません。

これは以前に香港の警察署で実際にあった話です。イギリス人の巡査部長（A）の部屋を中国人の巡査（B）がノックし、入室します。そして、⑥次の会話が始まります。

A : Yes?

B : My mother is not very well, sir.

A : Yes? — 眉間にしわを寄せる。

B : She has to go into hospital, sir.

A : So?

B : On Thursday, sir.

A : What is it that you want? — いらだちの表情をあらわにする

B : Nothing, sir. It's all right. — うなだれてつぶやき、退室する。

《 中 略 》

香港は1997年7月1日に、その全土がイギリスから中国に返還されました。ただし、返還後50年間は香港特別行政区(Hong Kong Special Administrative Region)となり、香港人による自治が行われることになっています。つまり、単独で各国と経済・文化関係を維持することができるわけです。中国は香港から徴税せず、防衛と外交に責任を持つとされています。

返還後の政策を取り決めた基本法(Basic Law)は、中国語に加えて、英語を公用語に規定しています。香港人(Hong Konger)の多くは返還後も生活のなかで、いろいろなかたちで英語を使っています。

《 中 略 》

時には⑦標準形から逸脱した英語もみられます。人材の募集に、"ability to communication with staff of all level" や "have experience dealing with machineries" というのがあります。

《 中 略 》

ブルネイ人の英語を聞いていると、マレーシア人やシンガポール人の英語とよく似ているという印象を受けます。《 中 略 》 単語使用ではフォーマル/インフォーマルの区別をあまりしません。たとえば、laud(ほめたたえる)はイギリス英語では文語に属し、日常語ではなくなっていますが、ブルネイ英語では“Some officials and cement traders lauded the move.”(高官とセメント業者はその動きを賞賛した)のように、普通に幅広く使っています。文法的におもしろいのは、《 中 略 》 次の例を見てください。

(d) “Students are invited to the ceremony which would be held in the Staff-Student Centre.” (学生は教職員・学生センターにて開催予定の祝賀会に招待されます)。普通の英語では、この  は  になるでしょう。

**問 2** 下線部分 (b) に関し、この二人の会話はコミュニケーションが成立しなかったと考えられるが、仮にその原因が B の側にあるとすれば、B は何を、あるいは、どのように言えばよかったと考えられるか。

**問 3** 下線部分 (c) に関し、続く二つの例を「標準形から逸脱した英語」と言っているが、標準形にするにはどの語をどのように変えればよいか。

**問 4** 空所①及び②に関し、①には下線部分 (d) の文中から一語抜き出し補充し、②にはその①の語を最も適切な形に変えて入れよ。

**問 5** この著者の主張に賛同すると仮定して、日本語話者としてはどんなことに、あるいは何に一番気を付けて、英語の学習をしていけば良いと考えるか。自分の考えを 400 字以内で述べよ。